

令和3年度 オホーツク地区の研究活動

研修部副部長

北見市立高栄小学校

校長 保川直紀

1 はじめに

オホーツク管内小中学校長会は、北見市、北見、網走、遠軽、紋別の五つのブロックの小・中学校、義務教育学校に所属する123名で組織されている。各ブロック及び管内において研究大会が組織的・継続的に行われ学校組織の活性化や教職員の資質・能力の向上に向けて校長自らが職能向上に努めている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により当初の研修計画を大幅に変更せざるを得ず、管内校長会教育研究大会を誌上交流という形態で実施した。しかし今年度については「校長会も学びを止めない」という方針で、役員・提言者・助言者のみが会同し、その他はオンライン中継するというハイブリット形式で実施した。管内の教育課題を共有し、課題解決へ向けてのプロセスについて具体的実践をもとにしながら研究を推進している。



管内研究大会第4分科会の様子 8.20

2 研究計画

(1) 研究主題（令和3年度策定3か年継続研究）

「未来を切り拓き ともに生きるよりよい社会を創り出す 日本人を育てる学校教育の推進」
～ オホーツクの大地に誇りと愛着をもち、
ともに未来を切り拓き社会を創造する子どもを育む学校経営の推進 ～

(2) 研究推進基本事項

- ① 管内校長会が組織的・計画的に研究を進めるため、4つの研究領域を設定し、それぞれを研究推進のための分科会とする。
- ② 各分科会は、「校長としての指導性」の観点から研究課題を設定する。
- ③ 会員全員がいずれかの分科会に所属し、各分科会の研究課題に基づいた研究を会員毎に進める。
- ④ 会員は、各分科会の研究課題から自校の経営や教育活動上の課題を探り、学校・児童生徒・地域社会の実態を踏まえ、一校を経営するという自覚に立った実践研究を進める。
- ⑤ 各分科会には、年度毎に提言者を置き、各分科会の研究課題に基づいた研究発表を管内研究大会において行う。
- ⑥ 研究発表は、各学校で行われている研究課題への取組を基に作成されるが、担当の市町村校長会は、提言者の提言内容が研究課題に沿い、成果や課題が明らかにされるように助言・協力を行う。
- ⑦ 管内校長会研修部は、提言者が研究内容とした研究課題を早期におさえ、提言者の取組の成果や課題が明らかになるような助言を行う。
- ⑧ 管内研究大会における研究発表及び討議の柱に基づいた研究協議を通し、校長会組織として成果や課題を明らかにする。

(3) 本年度管内教育研究大会における分科会と研究課題

①第1分科会【学校経営】

小「学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長の指導性」

中「学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長の指導性」

②第2分科会【教育課程】

小「豊かな心を育て、人間としての生き方の自覚を深める

教育課程の編成・実施と校長の指導性」

中「知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の指導性」

③第3分科会

小「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進と校長の指導性」

中「これからの学校運営を担うリーダーの育成と校長の指導性」

④第4分科会

小「いじめや不登校を生まない学校づくりの推進と校長の指導性」

中「ICT危機をめぐる情報教育の取組と校長の指導性」

3 今年度の研究活動の概要

(1) 第49回オホーツク管内小中校長会教育研究大会

期日・会場：令和3年8月20日（金）北見市「ホテル黒部」オンライン開催

協議：4分科会 各分科会で小中1本ずつの提言及び協議

(2) ブロック研究大会

① 網走ブロック校長会教育研究大会【網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町】

期日・会場：令和3年7月28日（水）網走市立東小学校

協議：4分科会での参加者全員のレポート協議、小中2分科会での提言及び協議

② 北見ブロック校長会学校経営研究会【美幌町・訓子府町・置戸町・津別町】

期日・会場：令和3年7月29日（木）置戸町コミュニティーホールとつぼ

協議：小学校の提言及び協議 →感染拡大により誌上交流

③ 北見市ブロック校長会学校経営研修会【北見市】

期日・会場：令和3年7月29日（木）端野総合支所

協議：2分科会（小・中）に分かれての提言及び協議 →感染拡大により誌上交流

④ 遠軽ブロック校長会研究大会【遠軽町・湧別町・佐呂間町】

期日・会場：令和3年7月27日（火）遠軽町 ホテルサンシャイン

協議：2分科会（小・中）に分かれての提言及び協議

⑤ 紋別ブロック校長会研究大会【紋別市・滝上町・興部町・西興部村・雄武町】

期日・会場：令和3年7月30日（金）西興部村立西興部小学校

協議：2分科会に分かれての提言及び協議

4 おわりに

今年度、オホーツク管内小中学校長会は、「校長としての指導性」を高める観点から管内教育研究大会を開催した。ウィズコロナの時代にマッチさせ、オンラインを活用してのハイブリット方式である。ブレイクアウトルームでのグループ協議では、オールオホーツクでの取組や実践交流について協議が尽きない様子であった。会同できない分、話すことを欲していたかのように充実した研究会となった。このつながりを大切に、今年度から始まった3か年計画の取組をオールオホーツクとして確実に取り組んでいくことが求められている。